

1 単元名「自分の思いを相手に伝える短歌を作ろう」 教材名「短歌の味わい」**2 単元の目標**

- ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。
【知識及び技能】（１）オ
- ・ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。【思考力、判断力、表現力】B（１）ウ
- ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として「自分の思いを伝えるための表現の工夫を考え、短歌を創作する活動」を位置づけた。短歌を創作するには、使用する語句や表現技法の意味や効果を深く理解することが必要である。また、自分が表現したかった情景や心情にふさわしい書き方ができているかどうかを振り返り、相手に正しく伝わるか考え、工夫する必要がある。これらの特徴から、この言語活動を位置づけた学習活動を展開することで「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる」という目標を達成することが出来ると考える。

4 単元について**（１）教材観**

本教材は短歌四首と、自身も歌人である筆者の鑑賞文で構成されている。短歌には一部歴史的仮名遣いが使われているものの、平易な言葉で書かれており、情景や心情の理解がしやすい。また、描かれている題材に関しても、想像や共感がしやすいものである。鑑賞文には、歌の情景だけでなく、それを表現するために用いられている表現技法に関しても述べられている。鑑賞文を通し、歌の情景をより深く理解するだけでなく、それらの情景をより鮮やかに表現するための技法や語句についても着目させることが出来る。

（２）生徒の実態（男子18名、女子16名 計34名）

短歌の学習は今回が初めてであるが、1年次に詩の学習と、川柳の創作をしている。表現技法については、1年次に「ふしぎ」「河童と蛙」「オツベルと象」、2年次に「虹の足」で学習している。反復法や倒置法、直喩、擬人法などは自分の力で探し出せる生徒が多いが、そのほかの技法に関しては、名前や働きを知っていても、使われている箇所を探したり、自分で使ったりすることは難しいと感じている生徒が多い。

学級の実態としては、個人で考える作業においては、集中し、答えを導き出すことの出来る粘り強さをもった生徒が多い。グループでの活動においては、積極的に発言が出来る生徒がいる一方、自分の考えをもっていないもなかなか集団の中で発言が出来ない生徒も少なくない。自分の考えや思いを伝えることについても、個では深く考え記述できても、他と共有したり、それを踏まえてさらに深い思考につなげたりすることは苦手とする生徒が多い印象である。しかし、与えられた課題については意欲的に取り組み、夏休み前に短歌の創作をさせたときも、ほとんどの生徒が30分程度で2首以上書くことが出来ていた。

個別には、漢字を書くことに課題がある生徒や、外国籍であるため、日本語に不自由さのある生徒もいる。全体での指示や指導に加え、個別に指示を出し、支援を行っていきたい。

【実施したアンケートから】回答：32名

○自分の考えや気持ちを文章（詩や短歌、俳句なども含む）で表現することは得意ですか。

得意	3
やや得意	5
やや苦手	15
苦手	10

○自分の考えや気持ちを、相手に伝える文章を書く際に、大切だと思うことを書いてください。
（一部抜粋）

- ・ 一番伝えたいことを土台にしてそこから枝分かれするように書いていく。
- ・ わかりやすく共感できることを書く。
- ・ 誰にでも伝わるようなわかりやすい例えを使うこと。
- ・ 変な言い回しをせず、直接的に伝えること。
- ・ その文章に込める思いを明確にする。表現技法を入れすぎない。
- ・ なるべくまとめた内容にする。

- ・一番伝えたいことを一つ決めて書くこと。
- ・自分の感情や今この瞬間感じたものをそのまま書く。
- ・説得力のある根拠を基にすること。
- ・自分の考えを率直に伝えるのではなく、どうしてそう思ったか、相手がこれを読んでどう思うかも考える。
- ・細やかにわかりやすく書くこと。
- ・自分の考えをしっかりと書くこと。理由や根拠も一緒に述べること。
- ・簡潔にまとめられるようにする。韻を踏むような読んで面白い文章を作ること。

○表現技法で知っているものは何ですか。（記述式・複数回答可）

擬人法	1 8	倒置法	1 5	擬態語	1 3
隠喩・暗喩	1 3	反復法	1 2	擬音語	9
直喩	6	体言止め	6	比喩	5
擬声語	3	繰り返し	2	省略	1
対句	1				

○「向日葵は金の油を身に浴びてゆらりと高し日のちいささよ」の短歌に使われている表現技法や表現上の工夫（言葉の使い方など）を書いてください。（一部抜粋）

- ・わからない。（複数）
- ・「身に浴びて」の部分で擬人法が使われている。（複数）
- ・擬態語、擬音語、隠喩（複数）
- ・日光を「金の油」と表現している。（複数）
- ・「金の油を身に浴びて」はひまわりが陽の光にあたっている様子を表している。
- ・「ゆらり」という言葉で少し揺れている様子、「日のちいささ」で、夕暮れの日が沈むのを想像できた。
- ・「金の油」という存在しない物を表現してて良い。「日のちいささよ」とあり、見た目は太陽と比べてひまわりが大きいことがよく分かる。
- ・「金の油」で太陽を強調している。

○「観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生」の短歌で使われている表現技法や表現上の工夫を書いてください。（一部抜粋）

- ・わからない。（複数）
- ・反復法、倒置法、繰り返し、対句、体言止め（複数）
- ・「君には一日我には一生」から、君にとっては大して大切ではない思い出だが、自分にとっては一生の思い出ということがわかる。

（３）指導観

本単元は単元全体を三段構成で考えた。第一次は、学習の流れを理解させ、「短歌の味わい」で取り上げられている四首を中心に、描かれている情景や心情、それを表現するために使われている表現技法や区切れなどの知識事項を確認する。特に表現技法や語彙に関する部分に関しては、どのようなねらいであるか、それを使うことでどのような効果が生まれているかを理解させたい。

第二次では、推敲や添削の仕方を学習する。どのような手順で語句や表現の部分の工夫をすれば、自分の書いた情景や心情が相手に伝わりやすく、よりよい創作が出来るかを考えさせ、三次の学習へのイメージを持たせる。

第三次では、実際に短歌を創作し、推敲する。短歌に加え、自分がどのような情景や心情を表したかったのか、そのためにどのような工夫をしたかを明確にした解説を書く。それをもとに相互に添削を行う。添削をする際には、「伝えたかったことが伝わってくるか」「表現上の工夫は適切か」などのことを確認し、相手の短歌をよくするための工夫を考える。他者が添削した内容を参考にし、推敲作業を行う。

「知識および技能」の目標である「比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。（１）オ」は１学年の目標であり、昨年度も学習した内容ではある。だが、短歌の創作およびその解説を書く上で、表現技法の学習は必須であり、生徒の実態でも表現技法の理解や使用には苦手意識があることがうかがえる。そのため、昨年度の目標事項ではあるが、知識及び技能の目標に設定した。

５ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。（１）オ	①表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。B（１）ウ	短歌について知り、これまでに学習した表現技法や文章の工夫などを学習に生かそうと

		している。
--	--	-------

6 指導と評価の計画（6時間扱い）

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
一次 (見いだす)	1 2	・学習の流れを確認する。 ・短歌の知識、表現技法を確認する。 ・「短歌の味わい」を読み、それぞれの短歌の内容、表現について知る。	[知識・技能] <ワークシート・観察>
二次 (自分で取り組む) (広げ深める)	3	・添削・推敲の仕方を学習する。	[知識・技能] <ワークシート・成果物>
三次 (まとめあげる)	4 5 6 (本時)	・短歌を創作し、解説を書く。 ・お互いの短歌を添削し、推敲をする。	[思考・判断・表現] <観察・成果物> [主体的に学習に取り組む態度] <観察・成果物>

7 本時の指導（6／6）

(1) 本時の目標

- ・自分の短歌の内容や表現の仕方について、相手に伝わるような文章の工夫をすることが出来る。
- [思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ

(2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◇)	備考
導入 (見いだす) 5分	1 前時の内容の復習を行う。 本時の学習の目標と学習の流れをつかむ。	○ 学習の流れを確認することで、本時の見通しを持たせられるようにする。	
	自分の短歌をよりよくするために、表現上の工夫をしよう		
展開 (自分で取り組む) 25分 (広げ深める) 15分	2 前時に相互に添削した内容を踏まえ、短歌の推敲を行う。前時から変更した点、工夫した点をワークシートにまとめる。	○ 活動が進まない生徒には、手順を示したワークシートを確認させる。 ◇ 自分の短歌の内容や表現の仕方について、相手に伝わるような文章の工夫をしている。 <ワークシート・観察>	ワークシート
	3 できあがった短歌を班内で発表する。	○ 最初にしたときに比べ、どこをよくしたか、工夫したかを明確にする。	
まとめ (まとめあげる) 5分	6 本時の学習について振り返りを記入する。	○ 本時の学習を通して学んだことや疑問点などを自己評価カードに書くよう指示する。	自己評価シート

(3) 板書計画

短歌の味わい 自分の短歌をよりよくするために、表現上の工夫をしよう 〈学習の流れ〉 ① 前回の添削をもとに、短歌を推敲する。 ② 班の中で発表会をする。 * 最初に比べて、変えた部分、工夫した部分を言えるようにしよう。

(4) 評価

〔思考・判断・表現〕の評価

本授業では、推敲を通し、表現上の工夫をしながら短歌を創作できているかを評価の基準とした。推敲をする上で使用するワークシートを成果物とし、その内容と、授業内の様子から見取ることとする。

A評価	短歌に描きたい情景や心情について、それを表現するための語句や表現技法の工夫を理解し、推敲をしながら短歌を創作している。
B評価	短歌に描きたい情景や心情について、それを表現するための語句や表現技法の工夫を理解し、短歌を創作している。
B評価に達しない生徒への手立て	教師見本を提示し、どのように学習を進めれば良いかを明確にする。表現技法や語句の資料を提示し、それを見ながら書けるようにする。